

伝えたい、伝統芸能の心

高森町伝統芸能連絡協議会会長 本田 研一

阿蘇の山々を守護するかのような位置にたつ山鳥は、色見で最も古く、古文書等に記載されている高森では数少ない地区でありました。記録によりま

すと、鎌倉期には北条氏が阿蘇社領の総地頭職となり、腹心の部下を地頭としてこの山鳥に住まわせます。それは阿蘇南郷の要としての地位にありました。

山鳥地区は、眼下に高森の家々が望め、右手には白水・久木野が見えます。山東部からの流れも望むことも出来る、重要な箇所でありました。

この山鳥は、白水・久木野地区との繋がりの方が大きく見えるのは、約一百年続いたとされる北条氏の支配と、南郷に居を構えた阿蘇家との関係によるものでした。

北条氏・阿蘇家といずれもこの山鳥を特別な場所としたものは、おそらく阿蘇火山を神の対象とした、その出入り口であったからでしょう。



▲色見・山鳥おたっちょの森

百余年も居を構えた北条氏の遺跡が、小国と比べると何も無いのは何故なんでしょう。

発掘調査を必要とし、恐らくは火山灰とか水害によるものでしょう。

もうすでに五十年前も前の出来事です。私が中学生の時の遠足は、この山鳥を越え砂千里を通り火口までのコースでした。まる一日をかけた過酷その

ものでした。

おそらくこのコースを選ばれたその意識の中に、南郷人の北条氏そして阿蘇家に関わる、目には見えぬ歴史的な血と言えるものが、そうさせたのかも知れません。

暫く前までは、このコースを通り山上を職場として通われている方がいらっしやいました。

南郷においては、この山鳥をぬける阿蘇登山コースが最も早くから開けた道程でありました。今は別荘が立ち並び、その人口は原住民より多いのが事実でしょう。

北条氏から阿蘇氏へ。今からおよそ千年も前に、阿蘇家は南阿蘇に居を構えました。

それは旧久木野村か白水村でした。その頃すでに山鳥は村をなし、百年の治世をなした北条氏は滅び、阿蘇家領としてこの地は戻ります。

阿蘇火口を絶対神とした阿蘇家にとって、南阿蘇に居をかまえる。当時は農作物の生産も阿蘇市より多かったとされ、一族が住まうにはことかかなかったとされます。

火口詣を重要な責務とされた阿蘇家

一族の人々にとって、色見・山鳥は火口に向かう一族の祈祷とか崇拜の場として、その重要な役目を果たしました。

「陣屋」・「館川（やかたがわ）」・「搭所（たつちよ）」と往時を偲ぶ地名がのこっています。「館川」は丸山から流下し、色見熊野座神社横を抜ける河川となっています。

「搭所」は山鳥より阿蘇山に向かい、農免道路を越えたすぐ左上にあり、生い茂る二本の楠の木の下方にあります。今はすっかり変わり、住宅とか別荘が多く立ち並び、賑やかになりました。

「搭所」とは、身分の高い家の墓地の称とされ、早世した阿蘇家の姫君の墓と言われています。

もう一見してもわからぬほどになった、姫君の墓地。時代はそうさせたのでしょうか。

深い森を背景に、眼前に広がる南郷の村々。小高い丘の上にある山鳥は、砦としてのその役目を果たしたのであります。

姫君が眠るこの地。山鳥に幼くして逝ったその想いは、今に伝える何だったのでしょうか。